



## 軍配はゲームセンターに

先日、実家の母が困った様子で電話をかけて来ました。聞けば、携帯電話が壊れて、何もできなくなってしまったとのこと。壊れた当初は、長い間携帯電話などなしで過ごして来たのだから、どうということもない…と思っていたそうですが、いざ友人に電話したりメールを送ったりすることが気軽にできなくなると、ものすごく困るのに気付いたんだそうです。

そんな私の母に限らず、今やお年寄りにはパソコンやデジカメなどの電子機器を使いこなし、様々な趣味や交流を楽しんでいます。もちろん、パチンコホールやゲームセンターといった場所にも、多くの年配客を見かける…どころか、超高齢化社会と言われるだけあって、今や主役とっていいほど、多数を占めていますね。

このほど、仕事の関係で数年ぶりにゲームセンターへ行ったのですが、ファン離れが顕著なパチンコホールに比べ、多くの高齢者が楽しそうに遊んでいる様子を目にし、少し驚きました。

パチンコ玉と同じく、ゲームでもメダルを貯めておくことが可能なので、リピーターは毎日のようにそれを引き出し、遊ぶことができます。現に、仕事仲間のご両親などは十万枚以上ものメダルを貯め、孫が来た際それらを使って一緒に遊んだりするのを楽しみにされているようで、それにも驚きました。

そのご両親は、子育てや仕事が終わって自由な時間ができた際、最初はパチンコを楽しもうとしていたそうです。ところ

ろが、ゆっくり遊べず時間も合わせられないことや、孫を連れて行けないことなどから、だんだんゲームセンターの方に足が向くようになった

とのこと。

パチンコよりゲームの方が、お互いペースを合わせて遊べる上、複合施設にあることが多いので、家族や孫ともいろいろ楽しめるというわけです。結局現在では、全くパチンコを打たなくなってしまったようで、それを聞いた私も思わず「なるほど…」と、妙に納得してしまいました。

パチンコとゲームセンターを比べた際、すぐに思い出すのは7~8年前、「1円パチンコ」の登場直後のことです。当時、導入ホールでは「ゲームセンターのパチンコで遊ぶお客さんを、1円パチンコのコーナーを使って呼び戻したい」といった主旨のことを話していました。

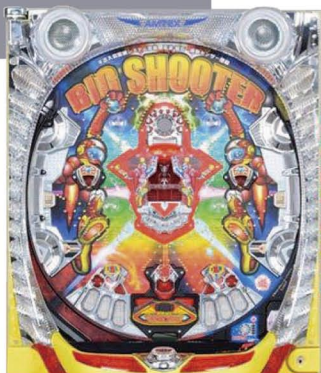
つまり、1円はあくまでもゲームを意識したコーナーの一部であったに過ぎないのです。ところが、今や業界の主力が低玉貸しパチンコになっている上、条件が似ているならゲームに行こう…というお客さんが、増えてしまっているのが現実。パチンコが勝っているのは「景品交換ができる」部分であったはずですが、それ以上にゲームの方に魅力を感じる人が多くなった、ということなのでしょう。

そういう流れを考えると、今パチンコに必要なのは、ゲームのような「プロセスが楽しめる」台の提供に他ならない気がします。アニメや芸能人等のタイアップ機種による集客力とは別に、チューリップや役モノの台つまり、自分の力で出せる(あるいはその気になる)ものをもっと設置して、売り上げよりも滞在時間を延ばし、まずは高齢者にパチンコに戻ってもらう努力をしなければいけないのではないかと、思うのです。

幸い、この春は遊べるパチンコ・パチスロのイベントも行われ、複数メーカーから羽根物タイプのパチンコも発表されました。そうした機種の継続的な活用を、真剣に考えてみるべきではないでしょうか。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(バジリコ、07年)



この春登場する羽根ものたち